



# 生態園 NEWS Letter

No166

2018/2

NPO 法人

茅ヶ崎公園自然生態園管理運営委員会事務局

Tel/Fax : 045 - 945 - 0816

E-mail [seitaiein@ybb.ne.jp](mailto:seitaiein@ybb.ne.jp)

URL <http://www.geocities.jp/seitaiejimukyoku/index.htm>

ヒヨドリ(12/3/7)



イヌシデ



ムクノキ



ソメイヨシノ



エノキ (2/9)



イチモジフユナミシャク♀ (1/9)



ナミスジフユナミシャク♀ (1/10)



ウスバフユシャク♂ (1/15)



シロオビフユシャク♂ (1/16)

## 〇〇〇水辺のいきもの〇〇〇 ホシハジロ (カモ科)

オスは赤茶、黒、灰のくっきりした配色で、虹彩が赤い。写真はメスで、虹彩がこげ茶色。潜水し餌をとる。生態園には1羽が今年初めて、キンクロハジロと共に飛来した。



冬に成虫で活動するシャクガ科の仲間を総称してフユシャクと呼んでいます。主な特長は、雄には普通に翅(はね)があり、飛ぶことができますのですが、雌には翅が無いか或いは極端に小さく飛ぶことができません。

ヒヨドリ:岡村勇 昆虫:山村靖男

## 今月の鳥

### エナガの巣づくり

2月にエナガを取り上げたのは、他の野鳥に先がけて巣の材料を集めているのをよく見かけるからです。

生態園や緑道でよく見られるエナガは留鳥で、丸い身体に長い尾羽がついた小鳥です。非繁殖期は群れで移動するので簡単に見つけられます。

2月中旬頃からエナガのつがいは協力して、クモの糸やガのまゆの糸を使って苔をまとめて樹木の幹のまたに丸い袋状の巣を作り、内部にはたくさんの羽毛を敷きます。

こんなにも丁寧に作られた巣が出来上がっても放棄されたのを何回か観察しています。天敵に見つけられやすい場所に作ってしまったからなのかもしれませんね。

繁殖に失敗したエナガがヘルパーとして子育てに参加することがあるようで、シジュウカラの子育てにも参加した例がありました\*。

小さくて弱々しいエナガが絶滅しないのは、早くから巧みな巣を作り、作り直すのも厭わず(いとわず)仲間とも協力しあって子育てするからなのでしょう。

深谷由美子



蛾のまゆの糸



苔をはがしている



羽根を集めている



つがいで巣を製作中

\*生田実「シジュウカラとエナガの共同育雛」日本野鳥の会 [http://www.wbsj.org/nature/public/strix/08/Strix08\\_21.pdf](http://www.wbsj.org/nature/public/strix/08/Strix08_21.pdf)